



TITLE:

編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記. 京都大學結核研究所年報 1950, 1: 198-198

ISSUE DATE:

1950-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/50961>

RIGHT:

編 集 後 記

- ◇ 初代所長 星野貞次名誉教授や第2代所長 服部峻治郎教授の時代から、研究所年報を発刊してはとの案が我々の間で度々話題に上り、一時は用紙の申請までしていた程であつたが、種々の事情で遺憾ながら今日まで実現の運びに至らなかつた。処が第3代所長 青柳安誠教授の時代となつて、漸くその氣運が熟したと見えて、青柳所長の御懇懇と所員各位の御後援によつてこゝに第1号を曲りなりにも発刊する事が出来た。年來の希望が達せられた事は我々として喜びに堪えぬ処である。
- ◇ 研究報告の種類が多岐に涉つている割合に總頁数が少くて、原著を殆んど掲載し得なかつた事は遺憾であるが、これは一に出版費の不足によるものである。將來經費が許せば巻頭言のところで青柳所長が述べられている様に季刊乃至半年報とし、英文号などをも併刊する外、詳しい原著などをも必要なだけ随時、自由に掲載し得るところまで発展せしめたいと思う。
- ◇ 偶々本年報の発刊の日に当り、本年報の生みの親とも言うべき青柳教授が所長を辭任された。健康上の理由からではあるが惜しい事である。同日付で京都大学医学部整形外科学教室 近藤鋭矢教授が後任所長として発令せられ、第4代所長に就任された。
- ◇ 昭和23年度末に鳥養京大学長、当時の所長 服部教授、岩井教授を始め、京大本部事務当局及び研究所 植野事務官の御努力並びに文部当局の御理解によつて京都市伏見区中書島の郊外に相当の廣さをもつた土地が研究所移轉豫定地として購入せられ、近い將來にこゝに向つて研究所が新に發展する事になつた。斯る際にお若い有爲な新所長を迎え、我々としては新所長の抱負と研究所の將來の發展とに期待するところ多大である。研究所の發展に連れて、これと影の形にそうが如き關係にある年報の内容も年々充實されて行く事と思うが、我々としてもこれを自然に放置せず、年報の質的並びに量的内容の充實に向つて更に積極的な努力を拂う積りである(長石忠三記入)。

昭和25年3月25日印刷

昭和25年3月31日発行

京都市左京区聖護院川原町53番地

発 行 所 京 都 大 学 結 核 研 究 所

発行兼編輯人 植 野 壽 夫
京都市左京区聖護院川原町53番地
京都大学結核研究所事務室内

印 刷 人 金 子 初 爾
京都市中京区烏丸通六角上ル

印 刷 所 株 式 會 社 洛 陽 社
京都市中京区烏丸通六角上ル